

令和5年度 第1回 研究・経営評議会 議事要旨

1. 日 時：令和5年6月8日（木）15：00～17：00
2. 場 所：日本医療研究開発機構 201 会議室・Web 併用開催
3. 出席者：
（委 員）
千葉議長、金倉委員、上村委員、小安委員、鹿野委員、昌子委員、白髭委員、諏訪委員
（事務局）
三島理事長、三浦理事、渡辺執行役、武田総括役、濱口先進的研究開発戦略センター長、
古賀先進的研究開発戦略センタープロボスト、立元経営企画部長、秋山総務部長、副島
経理部長、岩本研究開発統括推進室長、丸山研究公正・業務推進部長、佐久実用化推進
長、神田再生・細胞医療・遺伝子治療事業部長、日野原疾患基礎研究事業部長、
梅田シーズ開発・研究基盤事業部長、谷革新基盤創成事業部長、野田先進的研究開発事
業部長、須藤経営企画部次長、渡邊研究開発統括推進室次長 他
4. 議 事：
 1. AMED の自己評価（令和4年度）について
 2. その他
5. 議事の概要
事務局より開会する旨の発言があり、出席者の報告、三島理事長の挨拶の後、議事に入
った。

【議事1. AMED の自己評価（令和4年度）について】
事務局より資料2を基に説明を行った。
委員からは、以下のようなコメントがあった。

○再生・細胞医療・遺伝子治療実現加速化プログラムの再公募にあたっては、広く研究分野
をカバーできる拠点機関が採択されることが重要である。

○疾患基礎研究プロジェクトにおける新型コロナウイルス感染症の重症化要因の研究と同
様の成果が出ているムーンショット事業との連携が望まれる。

- 全ゲノムのデータベース利活用は非常に大きな進捗があったと考える。一方でシングルセルによる、全ゲノム解析やマルチオミックス研究の日本の取組が遅れている。ゲノム・オミックス解析分野を推進していくことも必要である。
- ゲノムデータベースの構築は基盤を作るという意味では非常に重要でありバイオバンクの利活用状況をみると実際に進捗していることが把握できる。一方で、アジアにおける日本のイニシアティブ発揮の観点からアジア諸国のバイオバンクとの融合が重要である。
- 調整費提案によるプロジェクト間、事業間連携の強化は非常に評価できる。単年度という枠をこえて継続実施できるような仕組みの構築が望まれる。
- 新たに始まった先端国際共同研究推進事業は素晴らしい取組である。特に研究者の交流によりお互いの国の文化も併せて理解しながら共同研究を進められる今までにない画期的な取組であり非常に期待している。
- 先端国際共同研究推進事業は非常に魅力的な取組であるが、課題ありきで研究者同士を強引にくっつけるのではなく、実際に共同研究する日本側研究者と海外研究者のコミュニケーションにより生じた課題を拾い上げていくような仕組みが望まれる。
- 国際連携を推進する中で、日本の規格を国際標準化するための働きかけは非常に重要である。そのため、日本が国際基準策定におけるリーダーシップを発揮するための取組は重要であり、日本企業の発展にも非常に寄与するものである。
- 国際連携の取組は精力的に活動している印象を受ける。研究が進んでおり力を持っている欧米諸国との連携も重要であるが、有事の際を想定すれば、日本がアジア圏でリーダーシップを発揮することが求められるため、アジア圏でもターゲットを絞り連携強化することも重要である。
- 社会共創の取組では研究者、患者経験者などで構成されるシンポジウム「AMED 社会共創 EXPO」を開催しているが、その開催結果のフィードバックを踏まえた次回開催や、新たな取組に繋げることが重要である。
- PPI（患者・市民参画）等は非常に大切な取組であり、患者視点を活かした研究や開発の促進、政策への反映といった取組を行っている組織への支援も望まれる。

- 新型コロナウイルスワクチンの開発支援について、ワクチンを開発しても使われないと意味がない、つまりファイザーの効果を凌駕するようなものでなければ使われないのではないか。このような臨床の立場からの考え方も受け止めた上でアウトカムのあり方について考えていく必要がある。
- 資金力に乏しい創薬ベンチャー企業の支援は非常に重要であり継続する必要がある。また、海外のベンチャー企業や海外の投資家と繋げる支援も望まれる。
- 全体を通して大きな成果を上げていると認識している。ただ、実績値が目標値を大きく上回ってしまっている項目については、次期中長期計画上の目標値の設定において、適切なものになるよう検討することが必要である。
- 例えば LEAP 事業と CiCLE 事業など異なる事業間において、基礎から実用化（出口）に向かう連携をシームレスに行える仕組みが望まれる。

【議事 2. その他】

委員からは、以下のようなコメントがあった。

- 研究者の中には応募の際の申請書のボリュームが大きく負担であるという声もある。少しずつ改善されているとは思いますが、よく耳を傾けて欲しい。
- 課題の評価においては、その適切性に疑義が生じないよう課題評価委員会のあり方についてしっかり検討していく必要がある。

最後に、三島理事長より、頂いたご意見を踏まえつつ、第2期の振り返りを引き続き行いより良い業務運営のあり方を検討し第3期にしっかりと繋げていく旨を発言した。

以上をもって議事は終了し、議長より閉会する旨の発言があった。

以上